

TOKYO 2020 がめざすもの

① アスリートの視点からの「Tomorrow」	それぞれが自己ベストの記録を達成できるような大会運営	オリンピックとパラリンピズムの浸透	大会後のスポーツ振興や健康志向の向上につなげる
② 東京・日本・世界の視点からの「Tomorrow」	大会運営に世界トップレベルの技術を展開	和をもって尊しとなす等の日本的価値観の発信	文化・伝統を未来に引き継ぐ
③ みんなの視点からの「Tomorrow」	みんなが創意工夫をこらしたおもてなし	各個人のアイデアを活かして全体をコーディネート	あの興奮をもう一度(1964年世代から2020年世代へ)
各視点に共通する3つの基本コンセプト	全員が自己ベスト(より高く)	多様性と調和(より広く)	未来への継承(より長く)

TOKYO 2020 ビジョン骨子

スポーツには、世界と未来を変える力がある。1964年、日本は変わった。2020年、世界を変えよう。

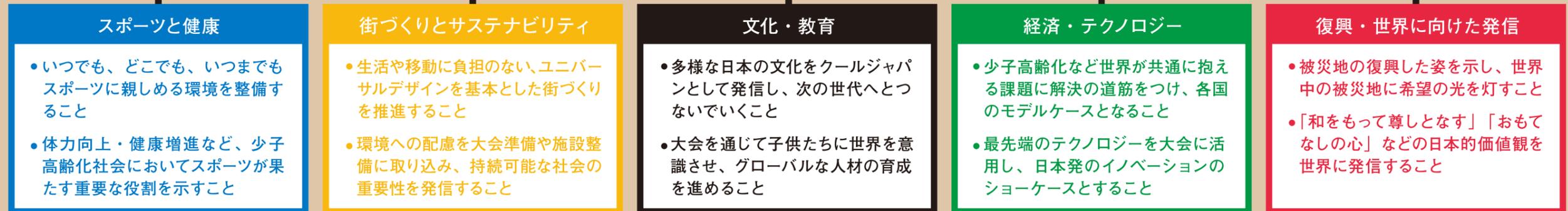
- 1** すべての人が自己ベストを目指そう。

アスリートだけでなく、おもてなしでも、テクノロジーでも、私たち全員が自己ベストを目指す。人類の可能性を最大限に活かした、歴史上、最もイノベティブなオリンピック・パラリンピック競技大会にしよう。
- 2** 一人ひとりが互いを認め合おう。

すべての人々が互いを認め合う。あらゆる多様性を積極的に肯定して、すべての人に前向きな変化を起こし、共生社会の創造に貢献しよう。
- 3** そして、未来につなげよう。

未来を信じ、次の世代にタスキをつなぐ。TOKYO 2020で生まれた変革を、新たなレガシーとして次世代に受け継いでいこう。

オールジャパン体制で描く 5つの未来



招致スローガン〈*Discover Tomorrow*～未来(あした)をつかもう～〉を具体化

1. 大会ビジョン構築に向けての意見聴取

- みんなのTomorrow (閲覧回数 約17万回、コメント 2164件)
- 組織委員会関係者 (顧問、評議員、理事、監事、参与、職員から意見聴取)
- 小・中学校への作文募集 (小学校 605校、中学校 264校 計約17000人)
- 政府
 - ・ 東京都、被災3県を含めた全都道府県
- メディア・アスリートなど有識者 (専門委員会を開催)
- 連携大学 (761大学) における地域巡回フォーラム (全国を9地域に分けて巡回中)
- JOC、JPC、JSC等のスポーツ団体

2. 3つの視点からの*Tomorrow*

アスリートの視点からの*Tomorrow*

- オリンピック・パラリンピックの精神を推進するとともに、両大会をひとつの大会として開催し、インクルーシブ社会の構築を目指す。
- アスリートが実力を最大に発揮し、それぞれが自己ベストの記録を達成できるよう、限られた予算と無限のアイデアのもと、最高の舞台を用意 (デリバリー) する。
- 競技施設のコンパクトな配置、ユニバーサルデザインを基本とした施設整備、輸送、食事、医療、暑さ対策などにより、選手のストレスを軽減する。
- 治安の良さと万全のセキュリティ対策で選手や観客等の安全を確保する。
- ドーピングや八百長、賭博を許さないフェアな大会とし、スポーツ界全体の透明性、公平性・公正性の維持・向上につなげる。
- 観客・視聴者・読者の立場とアスリートが一体となって、最高の舞台を作り上げ、エールの交換で競技場をアスリート・観客の融合の場にする。
- 若者から高齢者まで、すべての人たちに自分の大会として参画してもらい、ボランティアの精神を大会のレガシーの一つとする。
- 大会後のスポーツ振興やそれによる健康志向の向上を促し、スポーツの力による平和、教育、被災地支援など社会貢献を推進する。
- アジェンダ2020を大会運営に逐次反映、東京大会を新たなオリンピック・ムーブメントの出発点に。パラリンピズムの明確化も検討する。

東京・日本・世界の視点からの*Tomorrow*

1. スポーツと健康
 - 草の根スポーツへの振興策の充実により、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しめる環境を整備する。
 - 健康志向の高まりを通じたライフスタイルの変化が、体力向上・健康増進につながるなど、少子高齢化社会においてスポーツが果たす重要な役割を示す。
2. 街づくりとサステナビリティ
 - すべての人々が生活や移動に負担のない、ユニバーサルデザインを基本とした街づくりを推進する。
 - 環境への配慮を大会準備や施設整備に積極的に取り込むことで、持続可能な社会の重要性を発信する。
3. 文化・教育
 - 能や歌舞伎からポップカルチャーまで多様な日本の文化をクールジャパンとして発信し、次の世代へつないでいく。
 - 大会を通じて子供たちに世界を意識させ、世界規模で活動し、物事を考えるグローバルな人材の育成を進める。
4. 経済・テクノロジー
 - 少子高齢化や都市と地方の格差など世界が共通に抱える課題に解決の道筋をつけ、各国のモデルケースとなる。
 - 日本の誇る最先端のテクノロジーを大会に活用し、日本発の技術革新 (イノベーション) のショーケースとする。
5. 復興・世界に向けた発信
 - 被災地の復興した姿を示し、世界中の被災地に希望の光を灯す。
 - 大会の開催効果を他の地域にも波及させ、日本全体の活性化につなげる。
 - 和をもって尊しとなす「おもてなしの心」などの日本的価値観を、大会を契機に改めて世界に発信する。

みんなの視点からの*Tomorrow*

- 各方面から集まった、次のような具体的なアイデアを活かしつつ、全体をコーディネートしていく。
- 招致の際のスローガン「Discover Tomorrow」と3つの柱を忘れてはならず、そこから出発すべき。
 - 街で見かけた外国人に自分なりの「おもてなし」を工夫したい。
 - 各人がそれぞれ一か国を選び、言葉を学び、選手を応援する一人一国運動を展開したい。
 - 64年大会を目の当たりした世代が、その興奮を今の子供たちに伝える機会を設けたらどうか。世代間のつながりも増すと思う。
 - 日本の中心である東京での大会だからこそ、オールジャパンの大会とすることができる。
 - 東京以外の地域にも魅力があるということを世界に向けて発信してほしい。
- <震災復興に向けて>
- 選手たちの励ましは、被災者に夢と希望を与え、人の心をひとつにする力をもっていた。国内外の方々に復興の状況を示し、支援に対する感謝の気持ちを伝える絶好の機会。大会開催という追い風を復興の加速化につなげたい。
- <小・中学生の作文から>
- 大会は表に出ている人だけで成り立っているわけではない。陰で働いているたくさんの人を中心としたドキュメンタリーを見てみたい。
 - 日本の小学生の歌集に出てくるような歌をテーマソングにしてほしい。

	ロンドン2012	ソチ2014	リオ2016
他の開催都市の大会ビジョンの例	感動的で安全かつ包括的なオリンピックとパラリンピック競技大会を開催し、ロンドンと英国に持続可能なレガシーを残す。	ロシア精神をたたえる革新的な冬季オリンピック・パラリンピック競技大会と世界を鼓舞する持続可能かつ前向きな変革。	全てのブラジル国民は、世界で最大のスポーツの祭典の開催に向けて一致団結し、スポーツを通して誇りを持ってブラジルを発展させる。



TOKYO 2020

TOKYO 2020がめざすもの
～ビジョン骨子の要約～

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

その力は、私たち全員が自己のベストを目指すことで生まれます。

アスリート、
テクノロジー、
おもてなし。

すべての分野でその力を最大のものにし、
この世界を大きく前進させましょう。

すべての人にとって素晴らしい世界になるために、
あらゆる多様性を肯定し真の共生社会を実現しましょう。

そして、ここで生まれたすべての変革と進歩を
新たなレガシーとして次の世代へ。

1964年、日本を変えた私たちが
2020年、世界を変えましょう。
歴史がもっともイノベーティブな
オリンピック・パラリンピック競技大会だったと記憶するために。

2014・10・10

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

【プレスリリース】

- 東京運動記者クラブ
- 体協記者クラブ・JOC 記者会
- 都庁記者クラブ
- (社)日本雑誌協会
- 文部科学記者会 同時発表



一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
<TOKYO2020.NEWS-2014-046>
2014年10月6日

TOKYO2020 事前キャンプ候補地 ガイド（紹介リスト） 掲載情報に関する募集スケジュールについて

一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、国、東京都、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）及び公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）と連携し、協力を得ながら、2016年8月のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会（Rio2016）の開催に合わせて各国・各地域のNOC/NPC^{※1}に対して国内の事前キャンプ候補地を紹介するガイド（紹介リスト）を作成します。

ついては、ガイド（紹介リスト）に掲載する事前キャンプ候補地の情報を募集するため、応募手続きから紹介に関して、今後以下のとおり進めることとなりますので、お知らせします。

■事前キャンプ候補地情報の応募から発表までの流れ

組織委員会は、各国・各地域の選手団が実施する大会期間前のトレーニング施設となる国内の事前キャンプ候補地をガイド（紹介リスト）に掲載し、全てのNOC/NPCに紹介します。

ガイド（紹介リスト）に掲載する事前キャンプ候補地は自治体を対象に応募を受け付け、応募要項（2015年1月15日に組織委員会ホームページで発表）に基づいて掲載情報を決定します。

応募要項の内容については、対象となる都道府県及び市区町村にそれぞれ説明会を実施いたします。説明会后、応募を検討される自治体からは意思表示申請書を頂き、組織委員会ホームページでデータの登録を受け付け（2015年4月1日～）します。データは応募要項に基づいて精査し、掲載情報は、Rio2016の開催に合わせて、全てのNOC/NPCに対して組織委員会のホームページ上で紹介します。

2015年1月15日（木）	応募要項発表 <組織委員会ホームページにて>
2015年1月下旬（又は2月上旬）	応募要項説明会 ^{※2} <都道府県向け> 開催 ※文部科学省主催：都道府県スポーツ主管課長会議翌日を予定
2015年2月下旬	応募要項説明会<市区町村向け>【第1回・第2回】 開催
2015年3月上旬	応募要項説明会<市区町村向け>【第3回】 開催
2015年3月20日	意思表示申請書の受付開始 ※2018年7月末日まで（予定）
2015年4月1日	データ登録受付 開始 ※2018年9月末日まで（予定）
2016年8月	国内事前キャンプ候補地の情報提供を開始

※1 NOC＝国内（地域）オリンピック委員会 NPC＝国内（地域）パラリンピック委員会

※2 説明会の開催日時は、対象となる全ての都道府県及び市区町村に決定次第、別途通知いたします。

なお、市区町村向けの説明会は事前キャンプ誘致を検討し、説明会の参加を希望される自治体を対象に行います。

■事前キャンプについて

事前キャンプは各国・各地域のNOC / NPC（大会直前に選手団を編成）がそれぞれの責任と費用負担において任意に実施する大会期間前のトレーニングです。

ガイド（紹介リスト）は、国内において大会期間前トレーニングを実施するのに相応しい施設を全てのNOC / NPCに紹介し、国内に一つでも多くの事前キャンプが誘致できるよう支援する目的をもって作成するものですが、事前キャンプに係る一切の決定権はトレーニングを実施する各国・各地域のNOC / NPCが有しています。

そのため、ガイド（紹介リスト）に事前キャンプ候補地として情報が掲載されても各国・各地域のNOC / NPCが選択しなければ、事前キャンプ地として決定されません。

なお、事前キャンプは各国・各地域のNOC / NPCが任意に実施するものであることから、施設の所有者や自治体が独自に選手団との直接交渉などを行い、事前キャンプの誘致活動に取り組むことが可能です。また、各国・各地域のNOC / NPCが大会期間前トレーニングを行うのに十分な施設であると判断すれば、ガイド（紹介リスト）に掲載されている施設（応募要項の要件を満たす施設）以外の施設であっても事前キャンプ地に決定される可能性があります。

【本件に関するお問い合わせ】

一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

戦略広報課 西村・渡邊・奥村

電話：03-5990-5132 / FAX：03-6279-0157

Email: pressoffice@tokyo2020.jp

【一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会について】

2013年9月7日、ブエノスアイレス（アルゼンチン）で開催された第125回国際オリンピック委員会（IOC）総会にて、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決定。

公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と東京都は、2014年1月24日に一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会を設立。会長に森喜朗元内閣総理大臣・公益財団法人日本体育協会名誉会長、組織委員会事務局を統括する事務総長に武藤敏郎株式会社大和総研理事長が就任。今後組織委員会は、JOC、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）、東京都、政府、経済界、その他関係団体と共にオールジャパン体制の中心となり、大会の準備及び運営に関する事業を行います。

2020年に開催される第32回オリンピック競技大会は、2020年7月24日（金）～8月9日（日）の日程で28競技、第16回パラリンピック競技大会は、2020年8月25日（火）～9月6日（日）の日程で22競技が開催されます。